

『社会言語科学』特集論文の募集のお知らせ

学会誌編集委員会では、「特集・コミュニケーションの社会言語科学」の論文を募集しています。特集に投稿された論文は、通常の投稿論文と同じく、査読を経て掲載が決定されます。原稿の種類、原稿の書き方、投稿のしかた、投稿先などは、通常の論文の場合と同じです。投稿に際し、「特集」のための論文であることを明記してください。

論文投稿の締切 : 2002年11月30日

掲載号の発行 : 2003年7月(第6巻第1号に掲載予定)

お問い合わせ先 : 岡 隆 E-mail: oka@l.u-tokyo.ac.jp

Fax: 03-3815-6673

〒113-0033 文京区本郷 7-3-1

東京大学文学部社会心理学研究室

特集・コミュニケーションの社会言語科学

社会言語学会は、人間相互のコミュニケーションあるいは言語の機能を特に重視したトランスディシプリナリーな学会として、1998年1月24日に創立されたと、学会誌創刊号の巻頭言にある。5周年を迎え、ここに、コミュニケーションそのものをテーマとした特集を組みたい。

コミュニケーションは、いうまでもなく相互的な行為である。ここ百年ほどの近代言語学の歩みをふりかえると、言語は、理想的な一人の話者が有する抽象的な体系として捉えられてきた。こうした言語観が、豊かな価値ある知見を生み出してきたことはまぎれもない事実である。しかしながら、われわれはいま、パラダイムの転換を迫られている。

異質な他者との相互作用の中で、変化しながら、実時間とともに進展するコミュニケーション。この動態をあやまりなく正確に捉えるモデルが、学問として求められているのである。その姿は、

言語のしくみとして解明される必要があるとともに、言語それだけに閉じたものではない。コミュニケーションとは、人間が、相互に行うものである。とすれば、ことばを超えた、人自体の営みとして、個人と社会の両面に考慮しつつ、包括的にこれを捉える視点がなければならない。社会言語学会が、トランスディシプリナリーな学会としての性格を有するのは、必然的な要請の結果なのである。

特集は、総論と、各論、および応用論の三部から構成したい。

総論は、それぞれの学問的発想からコミュニケーションを捉えなおし、位置づけ、今後の展望を示す論を募集する。総論は、理論的な整理を主として行う研究であってよい。たとえば、「社会心理学からみたコミュニケーション研究」といったようなもの。

各論は、個別の事象を、コミュニケーションという観点から記述あるいは再考する、実証的な研究を募集する。説明にまで及んでいなくても、良質な記述に成功していることを大切にしたい。

応用論は、コミュニケーションの観点から、今日の現実的な課題を整理し、その解決を模索する、具体的な事例を含んだ論を募集する。言語教育や情報処理はもちろんのこと、気がつきにくい問題点を指摘する論も歓迎する。たとえ少ない事例であってもかまわない。課題との関係が具体的かつ説得的に示されていることが重要である。

どの部門に関しても、コミュニケーションという観点から各自が問題そのものを発見し、魅力的な題を提示し、論を展開していただくことを望んでいる。テーマがコミュニケーションに関係したものであれば、題には「コミュニケーション」という術語を含まなくてよい。希望部門の記入は、あればよいがなくてもよい。最終的な配置はおまかせいただきたい。

多様な経験を持つ会員の、多様なディシプリンから発想された、多様な切り口の論が並び、結果として現代のコミュニケーション研究の現状と課題が総合的に浮かび上がるような特集号になることを願っている。会員の皆様のご努力とご協力をあおぐものである。

(イシューエディタ: 沖 裕子)

ご注意: 社会言語学会ニュースレター第11号に、誤植がございました。特集のタイトルを「コミュニケーションの社会言語学」とご案内いたしましたが、正しくは上のように「コミュニケーションの社会言語科学」です。訂正してお詫び申し上げます(事業委員会)。